

林道事業再評価調書

事業名	林道開設事業（森林基幹道）	路線名	よこしたにやません 横石谷山線																	
事業主体	徳島県	関係市町村	那賀町(旧相生町、旧上那賀町)																	
事業概要	【目的】 本路線は、那賀町(旧相生町、旧上那賀町)と、美波町(旧日和佐町)の境界稜線を中心とした広大な人工林地帯の森林整備を行う上での基盤として整備するもので、森林の適正な管理や保全、効率的な森林施業を推進することにより、森林の有する多目的機能の持続的発揮や中山間地域の雇用の増進を図ることを目的とし、地球温暖化防止や循環型社会の形成に役立つものと期待される。また、国道195号と県道日和佐・上那賀線を連絡する連絡道としての利用のほか、災害時の迂回路として地域の生活基盤の改善に資することも期待されている。																			
	【内容】 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">利用区域面積</td> <td style="width: 30%;">1,197ha</td> <td style="width: 40%;">[人工林面積:1,085ha (91%)]</td> </tr> <tr> <td>受益戸数(森林所有者数)</td> <td>156戸</td> <td></td> </tr> <tr> <td>幅員</td> <td>4.0m</td> <td></td> </tr> <tr> <td>計画延長</td> <td>18,100m</td> <td>(うち平成30年度末の供用予定延長 11,814m)</td> </tr> <tr> <td>総事業費</td> <td>4,050,000千円</td> <td>(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,277,077千円)</td> </tr> <tr> <td>事業予定期間</td> <td>平成5年度～平成40年度</td> <td>(36年間)</td> </tr> </table>			利用区域面積	1,197ha	[人工林面積:1,085ha (91%)]	受益戸数(森林所有者数)	156戸		幅員	4.0m		計画延長	18,100m	(うち平成30年度末の供用予定延長 11,814m)	総事業費	4,050,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,277,077千円)	事業予定期間	平成5年度～平成40年度
利用区域面積	1,197ha	[人工林面積:1,085ha (91%)]																		
受益戸数(森林所有者数)	156戸																			
幅員	4.0m																			
計画延長	18,100m	(うち平成30年度末の供用予定延長 11,814m)																		
総事業費	4,050,000千円	(うち平成30年度末の実施予定事業費 3,277,077千円)																		
事業予定期間	平成5年度～平成40年度	(36年間)																		
評価項目	【事業の進捗状況】 工事は起点側横石工区と終点側谷山工区の両方向から進めており、平成30年度末現在、横石工区側8,039m、谷山工区側3,775mの開設・供用を予定しており、進捗率は66%となっている。 <div style="text-align: right;">[進捗率:65.3%]</div>																			
	【関連事業の整備状況】 当該路線では、木材生産を目的とした森林作業道が開設され、森林整備が盛んに行われている。平成12年度には、当林道起点に大規模国産材出荷販売施設が完成し、当林道から生産された多くの県産材が当該施設に出荷されている。																			
	【社会経済情勢の変化】 本県は県土の75%を森林が占め、人工林率も62%と高い。森林資源は、人工林を中心に、の40年間で約3倍にまで増加しており、特にスギ人工林は、今後5年間で樹齢50年生以上が50%を超え、成熟期を迎えており、当該路線に係る森林資源については、人工林面積の90.5%がスギであり、うち45.5%は51年～80年生と、搬出間伐や主伐の適期を迎えている。 県内には、製材業や家具製造業のほか、「合板工場」や「MDF工場」、「大型製材工場」など、多様な加工体制を有しており、県産木材の安定供給体制の整備が重要であるが、加えて、国産材需要は増加傾向にあり、川上と川下が一体となった取り組みを総合的に進めることが必要である。 県では平成23年度から、県産材の生産量と消費量の倍増を目的とした「次世代林業プロジェクト」を推進し、木材生産量や林業従事者の増加など成果を上げている。平成27年7月からは林業の一步先の未来を切り開く「新次元林業プロジェクト」を展開、主伐から造林、保育までの「森林サイクル」を取り戻し、雇用の創出とともに、森林資源の循環利用による森林・林業を核とした「地方創生」の実現を目指している。 目標を達成するうえで、主伐にも対応した「新林業生産システム」の導入と併せて、路網整備の推進が必要不可欠となっており、こうした背景のもと関係町村内の林業事業体で高性能林業機械を使用し、積極的に施業に取り組んでいる。																			
	【計画上重要な部分の変更の必要性の有無】 無し																			
目	【事業効果の発現状況】 供用開始した区域を利用して、平成29年度までに間伐をはじめとする森林整備が、延べ2,019ha実施されている。今後も、供用区間の増加に伴い、約200haの森林整備が計画されている。 <div style="text-align: center;">[費用対効果] 1.71 (国の採択基準は1.0以上)</div>																			
	【受益者・関係機関の意向】 高性能林業機械の導入による木材搬出経費の削減を図り、適切な森林管理を行う上で、基盤となる当林道の早期整備が強く望まれている。 また、地域の主要道である国道195号と県道日和佐・上那賀線を連絡し、地域の交通ネットワーク形成に果たす役割も期待されていることから、関係町、森林所有者等は早期完成を望んでいる。																			
	【事業の実施方針】 継続して事業を実施する。																			